



就任のあいさつ

福島県中学校長会会長 佐藤 厚生

このたび令和8年度福島県中学校長会会長を拝命いたしました福島市立福島第一中学校の佐藤厚生です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本年3月末をもちましてご勇退されました菅野浩智前会長をはじめ各校長先生方の長年にわたる本会へのご尽力に心より感謝申し上げますとともに、そのご功績に深く敬意を表するものであります。

さて、現在の中学校教育を取り巻く環境は大きく変化しており、不登校生徒への支援、教職員の働き方改革、ICTを活用した学びの推進、さらには地域や関係機関との連携の在り方など、多様かつ複雑な課題が山積しております。加えて、生徒一人一人の状況や背景も多様化し、従来の枠組みだけでは十分に対応しきれない場面も増えております。

このような状況の中で、各校がそれぞれに課題解決にあたるのではなく、校長会という組織を通して知見や実践を共有し、互いに支え合いながら学校経営の質を高めていくことの意義は、これまで以上に大きくなっていると感じております。昨年度、相双地区で開催された県校長会研究協議会の分科会においては、発表者の研究実践が大変示唆に富むものであり、私自身の学校経営においても、早速本年度の取組に活かすことができました。このことから、同じ立場にある者同士が対面で学び合うことの価値の大きさを改めて実感したところであります。令和8年度は、各支会で研究協議会が開催されることとなりますが、それぞれの支会において充実した実践が積み重ねられ、その成果が県校長会全体で確実に共有されていくことを大いに期待しております。

また、本会は令和9年度に設立80周年という大きな節目を迎えることとなります。これを見据え、本年度より記念事業等の準備を進めていくこととしております。これまでの歩みを振り返るとともに、その成果と意義を次代へと確実に継承し、さらなる発展につなげていく契機となるよう、会員の皆様と力を合わせて取り組んでまいりたいと存じます。

校長会は単なる情報交換の場にとどまるのではなく、地域の中学校教育の方向性を共に考え、次代を担う子どもたちのために責任ある意思決定を行う場でもあります。その役割の重さを改めて自覚しながら、微力ではございますが誠心誠意努めてまいり所存であります。

ウィンストン・チャーチルの言葉

一方で、課題ばかりに目を向け、その困難さを強調し続けるだけでは、私たち自身の気持ちも萎えてしまい、学校全体の活力も失われかねません。英国の首相であったチャーチルは、「悲観主義者はあらゆる機会の中に困難を見出し、楽観主義者はあらゆる困難の中に機会を見出す」との言葉を残しております。この言葉は、現実の厳しさから目を背けることなく受け止めながらも、その中にある可能性に目を向ける姿勢の大切さを示しているものと捉えております。私たちもこの精神を胸に、困難の中にこそ新たな価値や前進の契機を見出し、前向きに学校経営を進めていくことが求められているものと考えております。

学校は子どもたちが成長し、変化していく場であり、その日々の積み重ねの中には、確かな手応えや喜びが存在しています。私たち管理職がまずその価値を信じ、明るく元気に学校経営にあたるのが、教職員の意欲を高め、ひいては子どもたちの学びや成長につながっていくものと確信しております。校長会がその支えとなり、互いの実践に学び合いながら、一人では乗り越えにくい課題にも組織として立ち向かっていくことができれば、本会の存在意義は一層高まるものと思っております。

今後とも、皆様のご指導とご協力を賜りながら、本会の充実と発展、そして中学校教育の更なる向上に力を尽くしてまいりますことをお誓い申し上げます。就任の挨拶といたします。